

フォーラム 4

私達に出来ること、私達の責任

これまで話し合ってきたことはとても大きな課題です。小さな存在に過ぎない私達にはあまりにも荷が重すぎる。しかし、私達がキリスト者として生きる時、必然的に負わされたものがあります。この世界、この世にどのように向き合ってゆくのかということです。ご一緒に考えてみましょう。

原発は私たちに何をもたらしたか

1. 経済的側面

- ・立地自治体への交付金
- ・核燃料サイクルへの投資(15兆円)と破綻
- ・福島第一原発事故と地域破壊 事故処理、汚染対策、廃炉、賠償>16兆円

2. 政治的側面

- ・プルトニウム大量(47トン、原爆6000発分)保有による国際不安定
- ・使用済核燃料処分と管理の負の遺産
- ・「安全神話」の崩壊
- ・事故発生時対策の不備顕在化

3. 文化的側面

- ・事故による地域破壊
- ・被曝による健康被害

4. 倫理的側面

- ・神が創造し、良しとした世界の破壊
- ・いのちの尊厳の軽視
- ・社会構造的差別
- ・最も大切な「安全管理」の後世代への負の遺産

日本聖公会「原発のない世界をもとめて」活動の現状

2012年日本聖公会 第59(定期)総会決議

「神によって造られたいのちを脅かす」

「神によって創造された自然を破壊する」

「神によって与えられた平和な暮らしを奪う」

正義と平和委員会 「いっしょに歩こうプロジェクト」

原発問題プロジェクト

「神の民として正義を行うことへと召されていることを自覚し、平和の器として、世界の分裂と痛み、叫びと苦しみの声を聞き取ることの出来る教会へと変えられることを祈り求めます」

「原発のない世界を求める国際協議会」の開催

カトリック司教協議会 常任司教委員会

2016年「教会は人間のいのちと尊厳に関する問題に沈黙できない」

教会は社会に何を発信できるのか
どのような責任があるのか

No！原発、 No！化石燃料

「いのちと核エネルギーは共存できない」をモットーに、
地球上の全ての生物の掛け替えのない命 人間の尊厳を守る。
すでに、「核エネルギー」「化石燃料エネルギー」に代わるクリーン
な再生可能エネルギー技術が存在する。
集中、大容量発電所から分散電源にシフトする事による地域経済
の活性化を実現する。

以上の施策を展開し、持続型社会の姿を具体的に提示する事。

原発のない世界実現への道すじ

再生可能エネルギー政策への転換

クリーンエネルギー

太陽光

風力・洋上風力

バイオガス

地熱、

市民フォーラム

市民と政治家の対話と協調

SDGs(持続的開発目標 17項目あり)

持続可能性の高い安定した社会

クリーンな地球環境の維持

地域経済の活性化

次世代への責任

使用済核燃料の最終処分と管理

真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、
村を破らず、人を殺さざるべし



田中正造 (1841~1913)

衆議院議員 当選6回

足尾銅山鉱毒事件の解決
を願い、明治天皇に直訴



持てる資産を全てこの事
件の裁判や被害者の支
援に用いた。亡くなった時、
持っていたものは聖書と
日記帳だけだったという。

田中正造の生家

フォーラム4 : 私たちに出来ること・責任

- ① 「いのち」の尊厳とは何か
- ② 「原発」と「いのち」
- ③ 原発のない世界は実現できるか
- ④ 私たち（キリスト者）の責任とは